第2講

人文科学系(2)
真理と倫理の関係性

チャプター1

資料読解

生徒メモ欄

1　「エコロジー」という言葉は今日ではあらゆる機会に目にする言葉であるが，この言葉がこれほどに一般的な言葉になったのはつい最近のことである。そして，この言葉の意味やニュアンスも必ずしも一定でないことは，私たちが時として感じさせられる通りである。他方，この言葉が初めて作られたときの状況はだいたいはっきりとしているが，この言葉に類似の発想自体はエコロジー以外にもあったので，その前史についてもいろいろに考えられる。

2　エコロジーという言葉はもともと一九世紀の後半にドイツの一動物学者が，ダーウィン(一八〇九～八二)の学説に影響を受けて考えだした生物学上の言葉であり，それがいつのまにか人間と環境をめぐる新しい意識のあり方を表す概念へと変貌したのだ，というのがこの理論とそれを取り巻く思想の歴史にかんする通説である。

3　その動物学者とはドイツのエルンスト・ヘッケル(一八三四～一九一九)であり，哲学者でもあった彼は一八六六年ごろから生物と環境との関係をもとに，生物の形態を論じる学問として「エコロジー(生態学)」という言葉を使いだした。この場合の生物と環境との関係というのは，ダーウィンが生物種における「生存のための闘争状態」と述べた種と環境との相互関係のことであり，ヘッケルはこの関係が，特定の種の無機的，有機的環境との関係，ならびに直接，間接に結びつく他の動物や植物との友好的，敵対的関係の全体を意味しており，いわゆる「自然の秩序」とはそうした関係のトータルな全体を意味していると考えた。つまり，エコロジーとはそれまで漠然と「自然の秩序」とか「自然の摂理」と呼ばれていたもの

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

を，ダーウィン主義的な観点で厳密な意味で読み変え，学問化して扱おうとしたものだ，というわけである。

4　ヘッケルのこの発想はダーウィン自身も共有していた考えである。「自然の秩序」という言葉そのものは，古代の自然観以来一貫して思想史，科学史を通じてどこにも見える，ある意味では漠然とした一般的な考え方である。西洋の近代においてとりわけこの言葉が強調されるのは，「神によるデザイン（設計）」にもとづく自然という発想，つまり，目的論的観点から見て，「驚くべき調和ある自然」という考え方を押し出すために使われる哲学上の言葉であった。ダーウィンはそうした目的論的，神学的自然観と全面的に対決し，そこから脱却するために彼自身の進化論的生物論を提起しようとしたのである。

5　ダーウィンにとって，自然とは神の恵み深い恩寵によって秩序と調和の階層が幾重にも張り巡らされた美しい機械のようなものではなかった。自然のなかで生命はそれぞれの個体の性質の保存を賭けて闘争しており，環境における自然選択の圧力のもとで「最適者」とされた個体の性質がその種の優勢的な性質になるというしかたで，種の進化が冷厳に進行していく。この最適者生存の原理は，まさしくマルサスが経済的諸条件のもとでの人口の増減の法則を説いたモデルを下敷きにしており，ダーウィンはマルサスの経済学の理論モデルをその自然誌の研究に積極的に応用することで，有名な進化論のモデルを作り出すことができた。

6　いわば，マルサス的な経済的圧力こそ自然における環境の力の原型であり，このモデルによってダーウィンが自然界のヴィジョンを塗り替えた以上，そのヴィジョンをさらに大々的に拡大して，エコロジーという無数の種と環境の条件との関係の図式が，ヘッケルによって考案されるようになることは，ある意味ではきわめて自然なことだったのである。

7　さて，このような自然科学としてのエコロジーの成立史の説明では，エコロジーとは生物と環境の関係の考慮といっても，「生存のための闘争状態」にかかわる環境との関係を意味していた。しかし，この言葉はその後すぐに，こうした生存競争的意味での生物の「生態学」ではなく，人間的な住環境という意味の延長線上に生態や生存形式を考えるスタイルへと変貌した。

8　というのも，生物界の多様性を「自然界の秩序」というきわめて一般的で抽象的な言葉で表そうとしたいわゆる「自

生徒メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

然誌」や「博物学」は，必ずしもこうした目的論から自然淘汰（とうた）というルートで変貌したばかりではなく，別の経路を通ってよりヒューマニズム的な色彩の強い方向へと向かう素地を，もともともっていたからである。そのルートは，生物の多様性を「自然のエコノミー（注一）」と名付ける発想から，よりロマン主義的な方向へと転換しようとする（ある意味では目的論からダーウィン主義へという方向とは逆の）思想の進展方向であり，エコロジーという言葉はやがてこの方向へと合流することになったのである。

9　ヘッケルのエコロジー（生態学）という言葉を「きれいな空気と水と大地」の問題へと解釈し直した最初のころの一人は，エレン・スウォロウというアメリカの女性理論家であったといわれている。スウォロウの考えではエコロジーとは，セオロジー（神学）が宗教的生の学問であり，バイオロジーが生命の科学であるのと同じように，「健康で〔略〕幸福な生活の基礎になる原理を教える，もっとも重要な応用科学の名称である」。

10　これは，私たちが今日考えているエコロジーという問題意識と同じような理解である。彼女の説が，『ボストン・グローブ』紙上で紹介されたのは一八九二年であるが，この年がいわばエコロジー意識の元年であるといえる。そして彼女の発想の前には，一九世紀のアメリカやイギリスに特有のロマン主義的「風景」思想があり，その思想の源泉には「自然のエコノミー」という概念があるのである。

11　「自然のエコノミー」という思想はスウェーデンの生物学者リンネ（一七〇七～七八）が作り出した言葉である。リンネは生物の分類学と体系化において，歴史上もっとも偉大な功績を残した生物学者であるが，彼の著作や論文はその死に際してイギリスに購入されるとともに，リンネ協会などの設立を通じて非常に熱心な博物学的関心を生み出すことになった。

12　彼の思想では，自然のうちなる「エコノミー」とは，あらゆるものが循環的に運動し，さまざまな要素が組み合わさって無限の変容を帯びつつ最終的には絶え間ない循環が繰り返されるというものであった。季節の変化，生命の成長と死，岩や山の形成と消滅，水の循環，沼地と草原の循環，気候と地形，生物間の食物連鎖など，無数の形態と性質とは関係しあい支えあっている。自然の有機的な連関は，生物と環境の間の無数の影響力の連鎖として存在する。生物は環境の変化に従って適応しているが，それだけでなく，環境

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

のほうも沼地から草原へ，砂漠から湿原へと，生物の生の形式のもとで変化している。自然環境の変化と生物の変化とはそれ自体が循環的な相補的過程である。

13　リンネにとってすべての現象が変化しあい，環境と生命とが支えあっているというこの原理こそが，「自然における多様性のなかの協調」ということであったが，この原理への着目がイギリスやアメリカの人々の間では博物学的興味のもとで特異なロマン主義の復活という現象を生み出した。それはアメリカではソローやエマソンの「超越主義」という文芸運動を生み，イギリスではコールリッジやワーズワースなどのロマン主義の思想を育(はぐく)んだ。

14　ワーズワースの『逍遥(しょうよう)』や『湖畔案内』などでは，「漂泊(ひょうはく)」する旅人がイギリス北部の湖水地方や山岳地帯を歩むなかで，自然と人間との新しい関係を模索しつつ，人間としての感受性を純化し高めていく，というイメージが生き生きと描き出されていた。そこでは，自然の姿そのものの時間的な変化に感応し，この時間の変化を人生の意味と重ねあわせて自己鍛錬する精神のモデルが追求されていた。

15　生命は時間的な現象であるが，環境も時間的な存在である。刻々と変化するだけでなく，風雪や気候の循環のなかで大きく地形を変え地勢を転換していく風景や湖水地域は，それ自体が空間的現象である以上に「時間を生きる」存在なのである。

16　ラスキン（一八一九～一九〇〇）がエコロジカルな思想を展開したのは，アメリカでスウォロウがこの言葉をヒューマニスティックな意味合いで用い始めるよりも少し前のことであるので，エコロジーという言葉は使っていないが，しかし彼もまたこれらの人々と同時代人ということで，共通の思想を身につけている。つまり，自然そのものの全体論的調和の重視ということをロマン主義の思想から直接に引き継いでいる。

17　しかし，彼のエコロジカルな意識はこれらの人々の「自然における多様性のなかの協調」という発想だけにとどまるわけではない。むしろ，今日の私たちの目から見てもっとも目覚ましいと思われる考えは，単に人間と自然との調和的共存の維持や回復ということを目指すだけではなく，都市の機能や産業のあり方が自然破壊と直結しているという，社会の構造そのものと自然の変貌とを結びつけて問題視する見方である。

18　今日，私たちがエコロジーを意識するよう最大の影響を

生徒メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

与えた作品に，アメリカの女性科学者レイチェル・カーソンの『沈黙の春』(一九六二年)がある。カーソンはさまざまな化学物質や放射性物質のおびただしい乱用や農業への商業的応用が，やがて私たちが生きる自然環境全体の底なしの荒廃から死滅への道(「完全に沈黙した世界」)を用意するであろう，という強い警鐘を鳴らした。

19　カーソンは科学者であると同時にソローなどのアメリカの一九世紀のエコロジカルな思想に強い影響を受けていた。そしてラスキンもまた，「自然のエコノミー」という伝統に棹さす思想家として，一八六〇年代という早い時期に『この最後の者にも(注二)』のなかで，カーソンにそっくりな思想──「自然の沈黙」への警鐘──を展開している。

20　　それゆえ，空気を浄化すべき最大限の森林と緑草によって太陽の酷熱から保護し，流れに水を供給すべき傾斜地がなければならない。全イングランドは，そうしようと思えば,一つの工場都市となることもできるであろう。

ラスキンはこの文章のしばらく後で次のようにいっている。

21　　音のしない大気に快いものはない。それが快いのは，小鳥の高声，昆虫のうなり声や鳴き声，人間の太い調子のことば，子供の気ままなかん高い声など──低い流れに満ちているときだけである。生活の術(すべ)が学ばれるにつれて，あらゆる美しいものもまた必要であることが，ついには理解されるであろう。路傍の野草の花も，栽培された穀物と同様，野鳥も森の獣も，飼いならした家畜とおなじように必要である。それは人間がただパンだけにたよって生きるものではなく，荒野のマナ(注三)によっても生き，神のすべての不思議なことば，不可知のわざによっても生きるからである。

22　「音のしない大気に快いものはない」──。彼は何冊かの経済学批判の著作の後に手紙形式で刊行することにした『フォルス・クラヴィゲラ(注四)』(第五書簡)では，この思想を敷衍してさらにこういっている。

23　　すでに述べたように，ポリティカル・エコノミー(注五)の原理の最初に来るのは，きれいな空気と水と大地である。

24　　天はこれらのもとになる主要な元素をあなた方(注六)に与

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

えている。あなた方はそれらを好きなように破壊することもできるし，その利用可能量をほとんど無限に増大させることもできるのである。

25 空気が汚れる程度は，あなた方の生き方，死に方次第でどこまでも変化する。あなた方には自分たち全員が消えてしまうほどの悪疫(あくえき)が地球に起こるまでに，地上の空気を汚すことも可能である。〔略〕あなた方は現在いたるところで四六時中，化学物質を発散して空気を汚しており，あなた方が都市と呼ぶ恐ろしい巣窟(そうくつ)は，腐敗しつつある生物の肉体からの臭気と化膿性の病から生じる伝染性の瘴気(しょうき)が混じった，有毒な煙と臭いとを天に向かって吹き上げる工場とほとんど同じものになっている。

26 他方，腐敗した物質の一切合財を迅速適切に処理し，有害な製造業者たちを絶対に禁止し，大地と大気を浄化し活力を与えることのできる木々をあらゆる土地に植えることで，空気をきれいにする力も，あなた方は文字通り無限にもっている。あなた方は吸い込む空気のそれぞれを糧にすることもできるのである。

27 さらに，雨や地上の河川水にたいするあなた方の力も無限である。あなた方には賢明な植林と怠りない管理で，望みの場所に雨を降らせることもできるし，森林破壊と怠惰な土壌管理で干ばつを起こすのも可能なのだ。あなた方はイギリスの河川を水晶のように透き通ったものにもできるであろう。〔略〕しかし同時に，現状が示している通りに，イギリス中の河川を永久に下水に変えることもできるであろう。

28 「空気が汚れる程度は，あなた方の生き方，死に方次第でどこまでも変化する」。これはラスキンのエコロジー的な観点からする社会批判の骨子であるが，注意する必要があるのは，これが単なる都市の工業化や自然の産業拡大的開発によって，社会のなかに生きる人々に予期しない災害や不可測の困難をもたらす可能性があるという，いわゆる社会運営上の「リスク」の視点からの警告ではないということである。

29 彼の問題意識は，自然や環境の疲弊，破壊が，人間の精神の荒廃，思想的堕落と密接に連動しているという，「精神と自然に共通するエコノミー」という視点からの危機意識であり，そこに彼のエコロジカルな発想と今日の――環境リスク・アセスメント的な発想を超えた――より「深い」エコロジーの思想との一つの接点があると考えられる。

生徒メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

30 ここでは，彼の経済学批判が投げかけた独特なエコロジカルな問題意識と，それがもたらした思想史的影響について，一通り見てみたいと思うが，そのことを考えるために，まず，彼の人生前半の主著である『近代画家論(注七)』のなかでの，「風景の真理」や「風景の倫理」という考え方をもう一度確認してみる必要がある。そして，これらの自然にたいする見方や態度をめぐる問題意識の到達点として，一八八四年に発表した二回の連続講演「一九世紀の嵐雲」を見る必要がある。

31 この講演で，彼はほとんど新約聖書の「黙示録(もくしろく)」の著者(ヨハネ)にも似た激情に駆られて，文明社会が突き進む果てに出現する自然破壊という「ディストピア」，地球環境の戻ることのできない変形と破壊について語っているが，こうした発想は今日のディープ・エコロジー(注八)という思想運動に見られるような，近代西洋の自然思想を超克する新種の思想傾向とも通底する側面をもっている。

32 ラスキンの影響のもとで展開された風景論や環境論にはいかなるものがあるのか，そして，こうした思想的展開を歴史としてもつ私たちは，現在の時点でラスキンの思想のどこに注目するべきなのか，果たしてラスキンは今日のディープ・エコロジーの祖ともいうべき思想家なのか——。これらがここで検討してみようと思う問題である。

33 さて，ここではまず『近代画家論』の議論から始めることにしよう。

34 ラスキンの『近代画家論』の当初の目的は，ターナーの風景画を擁護することを通じて，「芸術における力，模倣，真実，美」などについての独自の考え方を展開するということにあったが，この主題においてラスキンがとりわけ強調点をおいた問題が，『近代画家論』第一巻の風景の描写における「真理」という問題であった。

35 ターナーは当時のイギリスにおいて，その大胆な自然描写のゆえに「自然に即していない」という批判をたびたび受けていた。ラスキンはこの批判に「黒い怒り」を覚えて，通俗的な美術評論におけるターナー批判を根底から覆すために，「自然に即した描写」ということの実態を明らかにしようとした。

36 その過程で彼はターナーの植物，樹木，空，大地，水の描写が，「色調，色彩，明暗，遠近法」などの絵画の各特徴にかんしていかに「真理」を体現したものであるかを，微に入り細を穿(うが)って分析し，また彼自身のスケッチやデッサンを交

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

えて解説した。彼は雲や空，木々や岩にかんする分類学と形成の力学，つまり地質学や気象学が「雲の真理」「空の真理」を基礎づけると述べるとともに，それを画家の色調や色彩への知識が補完することで「風景の真理」が出現すると考えた。すなわち，科学的，客観的分析と色彩の表現の技術が合一することによって，真理としての自然描写が可能になると考えたのである。

37　次に，『近代画家論』の第三巻では，第二巻ではほとんど登場しなかったターナーが再び取り上げられると同時に，「風景の倫理」というユニークな思想が論じられることになった。これは風景画という美術の真理の問題というよりも，自然風景そのものにたいする人々の精神のあり方について，古代，中世，近代の特徴を歴史的に跡付けていき，その歴史的展開の様子から，風景や自然の愛情ある享受にさいして保つべき姿勢を人間の倫理的なあり方の一つとして見定める，という議論である。

38　ラスキンはここでは，風景への関心という態度の歴史的目新しさということから語り始める。古代のギリシア人たちは山や川に関心がなかった。というよりも，近代以前の西洋の人間は，人間世界以外のことにはほとんど関心をもたなかった。自然や外界は，自分の運命にかかわる特別な場合以外には，注意を引くものとは思われなかった。これは古代の人々が自然との「ナイーブな」関係をもっていたということである。ナイーブとは人間の自意識が関与していないことであり，自然はそのあるがままの姿で素朴に受容されていた。

39　ホメロスに見られるようなこの素朴な自然の受容は，西洋の中世においては大きな変容を被った。というのも，西洋中世の自然観においては，神の被造物としての自然という性格が強く前面に押し出され，自然についての文学や美術表現は，本質的に神の存在や栄光と緊密に結びついていたために，自然は古代ギリシアの純粋にナイーブな受容以上に，神聖なる世界の象徴という宗教的，倫理的意味合いを強めたからである。

40　しかしながら，中世美術における認められる神聖な存在としての自然や風景の価値は，それを知覚する人間の側の精神的，感情的あり方から独立しているという意味では，やはり対象としての自然への非反省的で直接的な没頭を示している。中世の自然描写の典型はダンテによって示される。ダンテにとっての自然は彼自身の外に永遠に存在する

生徒メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

神的な精神の型を表している。中世の風景は安定し，明確で鮮明である。そこには近代の詩人に見られる「感情の興奮状態」に由来する曖昧さや混沌(こんとん)は存在しないのである。

41　さて，これらの古代や中世の自然受容と対比されるのが，自然や風景を観察しつつ，その体験が与える印象を反芻(はんすう)して，その反芻に伴う主観的な感情を伝えようとする近代の詩人や画家たちの自然描写である。近代の詩人たちは古代・中世のナイーブさの「一種の喪失」を出発点にしている。

42　ラスキンによれば，ワーズワース，キーツ，テニソンなどのロマン派の詩人たちは，「センティメンタル」な詩人である。彼らは，自然を知覚者の心を動かした度合いという観点からのみ意識する。詩人は，その対象たる自然が彼に与えた主観的な印象について反芻し，この反芻から生じる感情を，彼が個人的に体験した感情として読者に喚起しようとする。つまり近代人の場合は，自然はそれ自体としては知覚されず，内省的で感覚鋭敏な体験のうちでのみ感受されるのである。それは，「感情の興奮状態」が生み出す朦朧(もうろう)として不安定な世界であり，ある種の喪失そのものの表出である。そして，この興奮状態のために物事をはっきりと見ることができなくなることこそ，近代以降の自然認識がはらんでいる「感傷性の誤謬」である。

43　ラスキンの主張では，「感傷性の誤謬」はとりわけ近代精神の特徴である。古代や中世の芸術家は自然のうちなる事物の想像の産物ではない現実の特質を表現することで満足しているのにたいして，近代の風景画家や詩人は，生きた存在である自分が生命をもたない対象へと想像的に自己投影する何物かを表現しようとする。

44　古代人の場合には自然現象から神話的想像力によって神々が生じ，現象的な変化の背後にある実在の力としての神的な存在が素朴に信じられている。これにたいして近代の風景には「そこに宿る神的存在への信仰が完全に欠如」している。感傷性の誤謬とは，啓蒙主義によって破壊された宗教的信仰心の代用物を，主観的な観照によって補おうとする精神の運動である。それは信仰の欠如にもとづく不安の現われであり，結果としてそれが表現する自然は朦朧さのなかにある。朦朧さは空虚さの象徴であり，自然の神聖さをめぐるワーズワースの近代的，内省的な表現は，「実体を影と取り違えた誤謬」の産物である。ロマン主義が誇張して示す近代人の精神生活は，神々が宿らない雲に覆われているゆえに朦朧とした自然なのである。

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㊺　ところで，近代人はたしかにひどい欠落状態に陥っており，自然のうちなる神聖な存在への認識は「半信半疑」の中途半端なものにとどまっているが，自然の事物の生命感を称揚する詩人の表現には間違いなく事物にたいする詩人の関心や愛情が付随している。問題はしかし，自然にたいするいかなる「愛情」が健全であり，「人生の義務や正確な思考と合致する」ものなのか，ということである。ラスキンのいう「風景の倫理」とは，この風景への健全で正しい愛情の持ち方，育て方ということである。

㊻　「自然愛の不在はそんなに責められるべきではないけれども，自然愛の存在は，心情の善良さとモラルの自覚――けっしてモラルの実践ではない――の間違いない証拠である」。人々は自然を愛する人たちのことをしばしば「生来の怠け者，ずるけ者」といって非難することがある。しかし，自然の崇拝は単なる理性で引き起こしたり消し去ったりできない，偉大な霊の存在や力を思う気持ちを伴った精神の特殊な高揚である。自然の崇拝を通して，それ以外では伝わらない神聖な真理が伝達される。というのも，自然とは単なる美的享受（感情的感激）の対象であるばかりでなく，自然とそれに関連するすべての全体を透視し「幻視」する，「思想」という「第二の視覚」の対象でもあるからである。感情と思想とのこの不思議な平衡状態が，自然のなかにみなぎる「偉大で神聖な霊の存在」を私たちに知らしめる。

㊼　とはいえ，いうまでもなく健全で正しい愛情のためには何事であれ冷静で正しい知覚が必要である。そして正確なものの見方には，詩人の目よりも地質学者のハンマーが必要である。「ワーズワースの心の狭さはこれである。岩石をハンマーで砕いて水晶を探すことは，時には人間性にとって恥ずべき行為ではないし，草花を解剖することも，時にはそれを夢想することと同様に正当である」。私たちは宗教的教義を求めているのではなく，野のユリや岩石を凝視することを通じて，「真理の探究」と「美の感動」とが合わさって「神聖さ」の享受という高い精神的境位を達成することを求めている。

㊽　これにたいして，風景への感情的移入を優先させるロマン主義的観照は，せいぜい周辺的であり，悪くすれば病的なものとなりうる。この近代の病弊を避けるためには，自然にたいする態度にかんして次のような規則を立てて，思想の目を曇らせないようにする必要がある。それは風景の真理を感傷性の誤謬によって汚染されないようにする規則で

生徒メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

あり，これこそが自然愛や自然崇拝の正しい追求を可能にする規則という意味で，「風景の倫理」と名付けられる。

(注一)　エコノミー：エコノミーは「エコ」に「ノミー(ノモス nomos)〔規則，規範〕」が結びついた言葉であり，エコロジーも「エコ」に「ロジー(ロゴス logos)〔論理，学問〕」が結びついた言葉である。「エコ」はギリシア語で「家(オイコス oikos)〔共同体〕」を意味していたので，著者によれば，エコノミーとエコロジーのどちらも，語源的には家や共同体の管理規則や論理，家政や共同体の秩序・規則を意味している。
(注二)　『この最後の者にも』(一八六二年)。
(注三)　荒野のマナ：旧約聖書に登場する，神が作ったとされる超自然的な食べ物。
(注四)　『フォルス・クラヴィゲラ』(一八七一年創刊，一八八四年終刊)。
(注五)　ポリティカル・エコノミー：古典的な経済学の正式名称。経済学のもつ社会理論としての役割，政治的(ポリティカル)な次元と不可分である性格を強調するもの。
(注六)　あなた方：直接には『フォルス・クラヴィゲラ』という書簡シリーズの読者であるイギリスの労働者階級への呼びかけ。
(注七)　『近代画家論』(第一巻は一八四三年公刊)。
(注八)　今日のディープ・エコロジー：ノルウェーの哲学者ネスが一九七三年に提唱したエコロジーの新しい概念。人間のための「浅い(シャロウ)エコロジー」との対比で命名された。

伊藤邦武『経済学の哲学――一九世紀経済思想とラスキン』(二〇一一年)(ただし，一部に変更と省略がある)

(2014年度　神戸大学　文学部　後期)

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター2

問題およびヒント

問題を見てみよう

ラスキンの「風景の真理」と「風景の倫理」の関係に関する本論の議論をまとめた上で，真理と倫理のあるべき関係について，800字以内で自由に論じなさい。

解答案をつくってみよう

100

200

300

400

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

500

600

700

800

（　　　　字）

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価してみよう

答案が完成したら、以下の表を用いて自己評価をしてみましょう。
５段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見（主張）	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター3

答案例①

　ラスキンは地質学や気象学が自然の真理を基礎づけると述べ、それを画家の色調や色彩への知識が補完することで「風景の真理」が出現すると考えた。近代の自然描写は観察した自然や風景が与える印象を反芻して主観的な感情を伝えようとするものであり、自然をそれ自体として知覚せず、内省的で感覚鋭敏な体験のうちでのみ感受することを彼は「感傷性の誤謬」と批判した。冷静で正しい知覚をもって風景真理を感傷性の誤謬で汚染せず、自然愛や自然崇拝の正しい追求を可能にする規則が風景の倫理だと述べている。

　真理が原理原則であるという主張に賛同する。例えば地球は重力という我々の意思や願望の介入を許さない法則で支配されている。それに対し、倫理とは人の意思である。倫理観とは、行動に対しての規範として定義づけられるが、その良し悪しの判断基準も揺らぐものであり、不変ではない。その点で真理と倫理は真逆である。倫理的規範という語はあるが、真理的規範という表現はない。このことからも倫理は法律や宗教など一定のルールに影響されて設定される、守られるべき規範であると考えられるだろう。法律や宗教は各人が幸福な生活を送るために、集団の中で守るべきルールである。国や宗教を問わず殺すな、盗むなとされるのは殺されたり盗まれたりしたくないからである。しかし、一転してある人が敵対者や略奪者として目前に現れると、その人に対する殺戮や略奪が認められる。

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

殺さなければ殺されるからである。そこに物語が生まれる余地がある。相手の人生や、殺してはいけなかったはずなのに殺さざるを得ないことに葛藤が生じるからだ。その物語こそが芸術性であろう。一方、真理から見るとより弱い方が死ぬだけであり、そこには物語が発生しない。ラスキンの言うところの「ナイーブ」である。真理を曲げては嘘の作品になるが、倫理のない作品は芸術として成立しているとは言い難いのではないだろうか。

(799字)

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価してみよう

答案例①を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S	A	B	C	F
意見（主張）	設問と意見との関係	S	A	B	C	F
	独自性・独創性・発展性	S	A	B	C	F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S	A	B	C	F
	重要性・問題性	S	A	B	C	F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S	A	B	C	F
	簡潔な記述	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	S	A	B	C	F
	段落の設定	S	A	B	C	F
	制限字数	S	A	B	C	F
	文体の統一	S	A	B	C	F
	表現技法	S	A	B	C	F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター4

答案例②

　ラスキンは、科学的・客観的分析と色彩の表現の技術が合一することで「自然に即した描写」が可能になるという「風景の真理」を説き、自然に対して人々が保つべき健全な姿勢を「風景の倫理」として論じた。近代以降の人々は自然愛を持っている一方で、自然に対する宗教的信仰心が欠如しており、これを個人の主観的な観点で補おうとするため、物事をはっきり見ることができていない。正確にものを見るためには科学的に真理を追究する姿勢が必要であり、ここに正しい自然への愛情が合わさることにより、「神聖さ」の享受という高い精神的境位を追求することができるようになると主張している。

　私は、真理と倫理は、ものごとの正しさを追求する際に片方無くしては存在しない双子のような存在であるべきだと考える。真理は永久不変の道理であり、倫理が人々のとるべき行動や考えの規範であるならば、ある事柄について検討した際に、それぞれの視点で正しいとした結論が異なる可能性があるからだ。一例として、脳死からの臓器提供の是非に関する問題が挙げられる。真理的視点からは、脳死は脳全体の機能が失われている、近い将来身体の全機能が停止する状態だと言えるが、倫理的視点からは、まだ死亡していない人間であり、本人の意思が確認できない状態で臓器提供を行うことの善悪を問うことになる。両方の視点を合わせて思考することにより、私たちは物事を正しく追求することができる。

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

　加えて大切なのは、私たちが有する倫理観は個人によって異なるという理解に立つことではないだろうか。例えば、キリスト教に基づくプロテスタンティズムに裏打ちされたアメリカの道徳観と異なり、日本人の道徳観は幼い頃からの家族・社会からの教えにより形成されている。個人の倫理観は経験や価値観により異なるという意識が、物事を多角的に観察することを可能にし、より質の高い追求を可能にすると考える。

(791字)

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

評価してみよう

答案例②を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見（主張）	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

チャプター5

レベルアップのための読書案内

本講で学んだことを元に、さらにブラッシュアップするための
おすすめの書籍情報を知り、その書籍の読み方を学びましょう。

講義メモ欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

生徒メモ欄

教員記入欄

©RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。